

## 平成23年度 実施メニュー実施結果表

No. 34

東北森林管理局

取組名	木質バイオマス（林地残材）の利用拡大（継続）
流域名	大槌・気仙川流域
森林管理署名	三陸中部署
実施箇所及び実施日	三陸中部森林管理署西金沢山国有林（平成23年7月8日） 岩手県釜石市釜石地方森林組合（平成23年10月5日）
取組の背景及び必要性	<sup>かまいし</sup> 釜石地域では、平成22年度から年間約8千トンの木質バイオマス資源を石炭混焼しており、今後1万5千トンの事業拡大に向け、原料の安定供給が課題とされている。
取組の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○未利用資源の利用供給に向け、国有林内にある林地残材約23m<sup>3</sup>の販売量調査を行った。</li> <li>○石炭混焼の原料調達を担う森林組合と民材の搬入状況及び粉碎稼働の現況を情報交換した。</li> </ul> <p>（震災の影響を受け現地検討会開催と林地残材の販売は次年度に先送り）</p>
国有林担当部局・役割	三陸中部森林管理署 情報の収集・交換、未利用資源の拡大
連携協働相手先・役割	森林組合・林業事業者 情報の提供、林地残材の集積・運搬
取組の結果、反響、今後の課題等	林地残材の有効利用 地域におけるバイオマス需要の拡大が見込まれ、その特色を生かす安定供給
PRの実施状況及びその期待する効果	

【参考資料】

取 組 名 木質バイオマス（林地残材）の利用拡大（継続）

○石炭混焼するストックヤード内の粉碎の様子



○未利用資源（林地残材）の販売量調査



## 平成23年度 実施メニュー実施結果表

No. 35

東北森林管理局

取組名	民国連携した森林の共同施業の推進（継続）
流域名	大槌・気仙川流域
森林管理署名	三陸中部森林管理署
実施箇所及び実施日	岩手県釜石市只越町 釜石市役所 平成24年3月5日
取組の背景及び必要性	民有林と国有林が連携した施業の集約化は取組が遅れている状況にあり、共同施業の団地化に向け加速した取組が必要となっている。
取組の内容	<p>平成23年6月、東日本大震災後にあらためて釜石地域の民有林を担当する岩手県沿岸振興局及び釜石地方森林組合と森林施業の情報交換を再開させた。</p> <p>平成23年10月には集約候補地となる釜石市初神地域の国有林と隣接する民有林について、釜石市と釜石地方森林組合を入れた3者で連絡会を設け、お互いの設定メリットの検討を重ね、11月に関係者による現地踏査を行った。</p> <p>平成24年2月に民国連携した森林共同施業団地として国有林、市有林、民有林の共同図面の作成と権利関係の整理など円滑に進み、3月5日に岩手県内4件目の森林整備協定の締結を行った。</p> <p>調印式にはマスコミ2社の取材があり、釜石地域の森林・林業の活性化と低コスト林業を目指す協定内容（対象区域158ha、事業期間5カ年）が記事として地域に紹介された。</p>
国有林担当部局・役割	三陸中部森林管理署 森林整備協定の締結に向けて調整等
連携協働相手先・役割	釜石市、釜石地方森林組合、岩手県沿岸広域振興局農林部
取組の結果、反響、今後の課題等	隣接する民有林側の路網整備が加速され、低コスト林業が期待されていることから、国有林側の年度別実施計画が今後確実に実行されることが重要である。
PRの実施状況及びその期待する効果	

【参考資料】

タイトル

民国連携した森林共同施業の推進（継続）

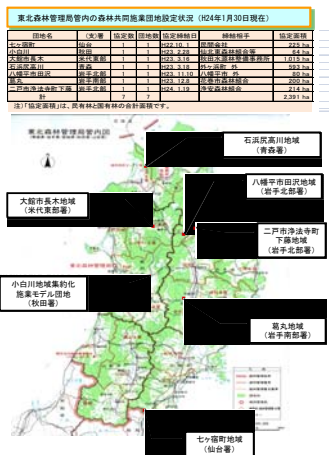
○連絡会3者による現地踏査を実施



○森林整備協定書の調印と交換した3代表



○協定概要パンフレットを作成配布



釜石市初神上台地域 森林整備協定の概要

協定に至るまで

- 県・市町・森林組合と森林施業情報の交換・収集
- 国面情報を基に間伐が集中する候補地の絞り込み
- 共同団地化によるお互いのメリットを検討
- 森林組合の協力による国有林所有者の合意形成
- 関係者による基幹的な路網連携の現地踏査
- 共同施業団地の作成と権利関係の整理
- 森林整備協定の締結

設定メリット

- 共同施業団地内の
  - 作業路網の共同利用
  - 低コスト間伐の推進
  - 利用間伐の拡大
  - 団地化による補助制度の活用

位置図

■ 所有者別 区域面積 単位:ha

全体面積	国有林	市有林	個人所有林
157.91	89.80	33.62	34.39
	57%	21%	22%

■ 森林整備計画 (期間: H24.4.1 ~ H29.3.31)

森林所有者	施業面積 (ha)	伐採数量 (立木)	作業種	路網整備・開設
市有林(釜石市)	32.62	4,266	間伐	2,000
私有林(森林組合)	13.48	1,253	間伐	4,000
国有林	13.69	891	間伐	2,760
計	61.99	6,410		1,411

## 平成23年度 実施メニュー実施結果表

No. 36

東北森林管理局

取組名	コンテナ苗木普及と低コスト造林の啓発（新規）
流域名	大槌・気仙川流域
森林管理署名	三陸中部森林管理署
実施箇所及び実施日	三陸中部森林管理署子飼沢国有林 平成23年10月28日
取組の背景及び必要性	流域内の造林未植栽地対策として、造林コストの低減が課題となっていることから、コンテナ苗木の普及と低コスト造林の啓発を行う必要がある。
取組の内容	<p><b>【平成23年度の取組内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○現地検討会を開催し、林業事業者及び自治体関係者など36名が集まり、コンテナ苗200本と普通苗100本の植栽体験を行った。</li> <li>○当流域内の国有林では初めてのコンテナ苗の植栽となり、参加者の関心は高く、植栽も簡単という声が多く聞かれた。また、意見交換では苗木小運搬の軽減方法など今後を見据えた質疑が交わされた。</li> <li>○コスト削減に向けて、森林総研林木育種センター東北育種場から、造林コスト削減方策、また、地元の苗木生産者からは、コンテナ苗木の特長や植栽の成功例などそれぞれ情報提供が行われた。</li> </ul>
国有林担当部局・役割	三陸中部森林管理署 情報提供・植付実演会の開催・フィールドの提供
連携協働相手先・役割	地方自治体、苗木生産者、林業事業者、森林総研林木育種センター 情報の提供、植付道具の協力
取組の結果、反響、今後の課題等	本格導入に向けた情報提供と植付の実演で関係者の反応も良く、今後、普通苗との比較結果の検討など継続した取組が課題である。
PRの実施状況及びその期待する効果	PR：プレスリリース、署HPへの取り組み掲載 効果：マスコミ2社の取材があり、造林コスト低減を探る検討会の様子が報道された。



【参考資料】

取 組 名      コンテナ苗木普及と低コスト造林の啓発

○低コスト林業の実現に向け情報提供を行う様子



○コンテナ苗（スギ2年生）の植栽体験を行った参加者



○コンテナ苗の特長を説明する苗木生産者



○新聞掲載された取組  
(H23.9.14付け東海新報より)



## 平成23年度 実施メニュー実施結果表

No. 37

東北森林管理局

取組名	生物多様性保全に配慮した森林づくりの体験活動（新規）
流域名	大槌・気仙川流域
森林管理署名	三陸中部森林管理署
実施箇所及び実施日	三陸中部森林管理署上石橋国有林 平成23年9月12日
取組の背景及び必要性	希少野生動植物の保全のため、国有林野事業による生息・生育に配慮した森林づくりを紹介することで、生物多様性への関心が高まり、保全事業への理解が深まる。
取組の内容	<p>【平成23年度の取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地元小学生20名と一般参加による大人4名が、列状間伐(等高線方向)跡地にノウサギの隠れ家づくりを行い小動物の個体を増やす森林づくりの体験を行った。</li> <li>○隠れ家づくりは、署職員の指導のもと児童らが切捨てられた間伐材や枝を集め、面積0.2ha内に11基完成させ、ノウサギが休息や食事で利用できるよう工夫を重ね、イヌワシの採餌環境を整えた。</li> <li>○この体験には一般の大人4名も参加し、児童とともにイヌワシの生態や採餌環境の必要性などを一緒に学び、隠れ家づくりの体験を行った。</li> </ul>
国有林担当部局・役割	三陸中部森林管理署 体験活動の企画、体験用資料の作成
連携協働相手先・役割	<small>ひころいち</small> 大船渡市立日頃市小学校 体験活動の連携
取組の結果、反響、今後の課題等	児童が地域の特色ある生態系を学び、地元にある森林とふれあうことで学校側と初めて連携ができた。今後、隠れ家の利用状況の確認など保全の充実が課題である。
PRの実施状況及びその期待する効果	PR：プレスリリース、署HPへの取り組み掲載 効果：生物多様性のニュース性が高く、マスコミ等による保全取組の紹介により、市民の関心も高まった。



【参考資料】

取組名 生物多様性保全に配慮した森林づくりの体験活動（新規）

○実物大のイヌワシをパネルで紹介



○仲間と相談し工夫を重ねる様子



○ほぼ完成間近の隠れ家の様子



○体験を応援する一般参加の皆さん

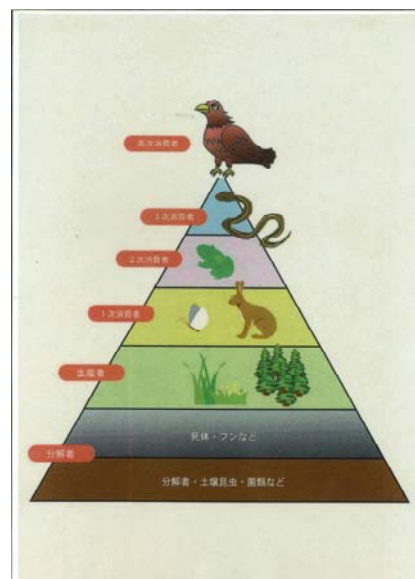


○地元新聞の掲載

(H23. 9. 14付け東海新報より)



○予習に使われた食物連鎖の資料





## 平成23年度 実施メニュー実施結果表

No. 38

東北森林管理局

取組名	「遊々の森」を活用した森林環境教育の支援（継続）
流域名	大槌・気仙川流域
森林管理署名	三陸中部森林管理署
実施箇所及び実施日	岩手県大船渡市立末崎 <sup>まつさき</sup> 中学校（平成23年6月2日） 三陸中部森林管理署末崎山国有林（平成23年6月9日）
取組の背景及び必要性	漁業の盛んな地域にある地元中学生が「遊々の森」のフィールドを活用し、「森林と海との関わり」をテーマに体験活動を平成15年より取り組んでおり、地域の特性を生かした森林環境教育を行うことができる。
取組の内容	<p>【平成23年度の取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○3学年生徒58名を対象に6月2日に事前学習の実施、6月9日に植付・間伐などの林業体験を行った。</li> <li>○体験前の事前学習では職員を派遣し、森林のはたらきや大切さをスライドを使い、わかりやすく予習を行った。</li> <li>○林業体験では「遊々の森」をフィールドにスギ苗200本の植樹、コナラの下刈り、スギの間伐などの活動支援を行い、班毎についての職員の指導のもと「森林と海との関わり」を体系的に学習することができた。</li> <li>○震災により学校施設が避難所となりながらも、森林・林業にも目を向けた活動が行われ、海と森林との総合学習の集大成として3年生が取り組みを行った。</li> <li>○「遊々の森」の協定を継続することで平成24年2月2日に締結を行った。</li> </ul>
国有林担当部局・役割	三陸中部森林管理署 森林・林業の普及、体験林業の支援
連携協働相手先・役割	大船渡市立末崎 <sup>まつさき</sup> 中学校 「遊々の森」協定に基づく活動の実施
取組の結果、反響、今後の課題等	震災の影響で、学校のワカメ養殖施設も損壊したが、生徒らが海の復興に向け元気を取り戻し、森林との総合学習を望んでおり、継続した活動支援が期待されている。
PRの実施状況及びその期待する効果	PR：プレスリリース、署HPへの取り組み掲載 効果：生徒らが震災の困難を乗り越え、海が復興することを願って森林を育む姿が新聞報道された。

【参考資料】

取組名 「遊々の森」を活用した森林環境教育の支援

○森と海との関わりを事前学習



○体験の前に職員と打合せする生徒



○昨年植えたコナラの下刈作業体験



○鋸を使いスギ林の手入れに励む中学生



○復興記事として新聞掲載  
(H23.6.10付け岩手日報より)



## 平成23年度 実施メニュー実施結果表

No. 39

東北森林管理局

取組名	地域住民に対する「国民の森林」の情報発信（継続）
流域名	大槌・気仙川流域
森林管理署名	三陸中部森林管理署
実施箇所及び実施日	三陸中部森林管理署庁舎構内 平成23年8月6日
取組の背景及び必要性	森林・木材情報の提供、国有林の概要など国民に向けた情報発信がより必要となっており、木工教室を通じ市民にPRを実施している。
取組の内容	<p>【平成23年度の取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○効果的なPRとなるよう小学生の夏休み期間を活用し、木工教室を通じた「木とのふれあい」の場を提供、併せて木材利用の拡大に繋がる情報の発信を行った。</li> <li>○庁舎が被災復旧の中、一般公募による親子8組20名が参加し、署職員の組立指導によりスギ板材を使ってミニイスや巣箱などの工作を楽しんだ。また、仮設住宅向けに花鉢プランターや木片を使った簡易表札づくりにも人気があった。</li> <li>○工作会場には新築された3階建ての木造宿舎のパネルを展示し、環境にやさしい木造建築の良さをPRした。</li> </ul>
国有林担当部局・役割	三陸中部森林管理署 木工教室の開催、木材利用のPR
連携協働相手先・役割	森林管理局 連携、PR拡大
取組の結果、反響、今後の課題等	今年開催は、津波被害の爪跡が残る中で行われたが、今後も市民に木材の良さをPRし、復興住宅など木材利用拡大の情報発信が必要である。
PRの実施状況及びその期待する効果	PR：プレスリリース、署HPへの取り組み掲載 効果：木で作る楽しさを実感する様子が新聞報道され、木材が環境に優しい素材で利用拡大につながるPRがされた。

【参考資料】

取 組 名 地域住民に対する「国民の森林」の情報発信（継続）

○木材の良さを実感しながら親子で工作する様子



○自作したイスの座りごちを確かめる小学生



○完成した木造3階建公務員宿舎を紹介し木材利用をPR

